

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (投稿論文) 市販減塩食品の二重盲検無 作為化比較クロスオーバー研 究－社会的な減塩推進方策 のための探索的研究－	共著	2025年3月	HIU 健康科学ジャー ナル 第4号	生活習慣病予防対策として知識伝授型教育による方策の一方で、ヒトが行動に至るまでのハードルが低くなるよう食環境を整え、「ゼロ次予防」として健康寿命の延伸に繋がる取り組みについて検討した。同意の得られた被験者に市販の通常・減塩食品を喫食したところ、通常・減塩食品ともに味の評価は大きく異なることはなく、減塩食品でも嗜好性に合うことが示唆された。 (岡村友理香, 今崎彩乃, 櫻村直希, 竹竝花, 秦凜夏, 元廣滉太, 山本春瑠, 柚本真実, 中村亜紀) 研究計画、実施、データ解析、発表 担当
2 (報告・発表) 野菜の食形態および摂取する タイミングの違いが食後血糖 上昇に与える影響	共著	2020年1月	第23回 日本病態栄養学会 学術総会 S-16	野菜の食形態と摂取するタイミングの違いが食後血統上昇に与える影響を検討した。食事時の野菜を先に食べることによって食後の血糖の緩やかな上昇やピーク値に至るまでの時間を遅らせる可能性が示唆された。また野菜を全て食べることよりも半量ずつ分割して食べた場合の方が糖の吸収を抑制する可能性が推察された。 (大森聡, 岡村友理香, 小野章史) 共同研究につきデータ統計処理を担当
3 (報告・発表) モリブデン含有薬物代謝酵素 における概日リズムの検討	共著	2020年3月	日本薬学会第139 年会(日本薬学会)	ラット肝 cytosol 画分を用いて、モリブデン含有薬物代謝酵素の活性における概日リズムを検討した。その結果、ラットを用いた検討において、XDH 活性が日内変動を示すことが明らかとなった。一方、ラット肝 XO 活性には概日リズムが存在しないと考える。同様に、AO 活性にも日内変動は存在しなかった。 (田山 剛崇, 前田 志津子, 岡村 友理香, 喜多智生, 杉原 数美, 三宅 勝志)27Q-am141 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (報告・発表) 成長スパート期における骨量 関連因子の検討	共著	2020年9月	第67回 日本栄養改善学会 学術総会	骨量獲得に影響を与える要因として、成長スパート期初期の食事および生活習慣を検討した。エネルギー産生栄養素バランスにおいて、たんぱく質は目標量の下限、脂質は上限である結果が得られた。骨量高値群では週 4~5 回の運動回数と有意な関連が認められた。骨量を高めるには高頻度の運動介入が有効である可能性が示唆された。今後は運動の強度や時間の検討を重ね栄養摂取状況との関連性をより明確にしていく必要があると考察した。 (岡村 友理香, 大須賀恭子, 長嶺憲太郎, 岡山和代, 尾形聡, 寺重隆視, 旭久美子)p.109 研究計画、実施、データ解析、発表 担当
5 (報告・発表) ラットにおける肝臓および血漿 中 Xanthine oxidoreductase の 活性とたんぱく発現に及ぼす 概日リズムの影響	共著	2022年3月	日本薬学会第142 年会	ラット血漿画分および肝 cytosol 画分を用いて、XOR(XO と XDH)活性およびそのタンパク質発現における概日リズムを検討した。ラット肝 XOR 活性の日内変動は、タンパク質発現による起因が考えられた。また、肝 cytosol 画分の XOR 活性は日内変動を示したことから、XOR 代謝を受ける医薬品体内動態は、血漿中よりも肝 XOR 活性の日内変動を反映する可能性が示唆された。 (田山剛崇, 前田志津子, 田邊建志, 岡村友理香, 杉原和美, 三宅 勝志) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能

所属・氏名 (健康科学部 医療栄養学科 氏名: 岡村 友理香)

2025年5月7日現在